

本学教官執筆書籍の紹介

塩野 寛 著 法医学 —推理する医学—

羊土社ひつじ科学ブックス、1998年、B6判、142ページ、定価1,500円

清 水 恵 子

とにかく大変読みやすく、興味深い。一気に最後まで読んでしまう。事件（謎）を解明してゆく科学的手法が素人にも解りやすく明快に紹介されているため、ついつい引き込まれていくからだ。著者（旭川医科大学法医学講座教授）は法医学の真髄を数多い実例を交えながら、明快に解説してくれている。死人に口なしとは、昔から巷でよく言われることであるが、実は全くそうではないらしい。聞く耳をもつ者（法医学者）に対しては、死体は実に多弁であるようだ。さらに、死体は嘘はつかないらしい。黙して語らない場合はあっても、決して嘘をつかない、語るとすれば真実のみという点が、生きている人間とは違うらしい。法医学者は、死体の語る言葉をじっくりと聞き取り、その結果死者の人権を擁護し、さらにその死者に関わった生きている者の人権を守っている。

法医学とは、医学的解明、助言を必要とする法律上の案件、事項について、科学的で公正な医学的判断をくだすことによって、個人的基本的人権の擁護、社会の安全、福祉の維持に寄与することを目的とする医学である。殺人事件で被害者を解剖するのは、そこから得た医学的真実で事件解決を願うからである。テレビドラマによって昨今急に有名になった法医学であるが、その歴史は古く、ルーツはヒポクラテスにまでさかのぼる。

ヒポクラテスは未熟児の生存能力の有無で墮胎が殺人か否かを論じた。アルキメデスは有名なアルキメデスの原理によって王冠の合金に関する鑑定を行っており、今日の鑑識科学の元祖となる仕事であった。ローマ帝国時代になってアンチスチウスは、暗殺されたシーザーが受けた23個の創傷のうち、胸部の第一肋間の剣が死因であると判断している。14世紀にイタリアで初めて法医解剖がなされ、中国で法医学の教科書が著され、足利時代に日本に伝来して和訳され、明治になるまでのわが国における唯一の死体の見方の手引き書

として岡っ引きや同心の参考になったという。明治になり、東京浅草の警視庁第五病院内に裁判医学校が設けられ、当時東京医学校（東京大学の前身）の解剖学教師、ウイルペルミ・ディニツが法医を講義したのが、明治8年であり、日本の法医学講座発祥である。その後、明治24年、片山国嘉（東京大学教授）がウィーンのホフマンのもとから帰国し、裁判医学から法医学と名称を改めて、今日に至っている。

ヒポクラテスの時代から今日まで、法医学は鑑識科学、遺伝学、中毒学、病理学など多くの専門分野を吸収しながら発展した学際的な学問である。その中で、真実を追究し、無実の罪を無くすという考え方は常に変わらず、法医学者の理念、信念として生き続けている。法医学者はあくまで中立な立場で、冷静に真実のみを追い求めていくのだ。

解剖は死者の人権を守る為に行われるが、同時に生きている人間の人権も擁護するのである。一時停止無視をしたラーメン屋の軽自動車が、優先道路を走行していたトラックに腹を立て、逆恨みであるにも拘わらず、後を追いかけてきた。トラックが停止したところで、ラーメン屋の運転手が降りてきて、トラックの運転席の窓を開けさせ、運転手の襟首をつかまえ「なんて運転をしているんだ！」と叫び、いきなり顔面を殴りつけた。トラックの運転手は驚いて車から降りようとしたところ、このラーメン屋の運転手が、急に「うー」とうなり声をあげてひっくり返ってしまった。救急車で運ばれたが、既に死亡していた。この2人の様子を見ていた目撃者はおらず、ラーメン屋の運転手の遺族は、トラックの運転手が手を出したのではないかという口振りだったため、死因究明のために解剖（承諾解剖）にふされることとなった。外傷は無く、死因は左心室前壁の心筋梗塞発作であった。トラック運転手の無実が証明されたのである。

バーで支払いを巡ってマスターと客が口論となっ

た。2人とも酔っていたため、だんだん口論も激しくなり、マスターが空ビンで客の頭を軽く殴った。ビンは割れて客は頭から出血したまま動かなくなった。救急病院に運ばれたが既に死亡していた。当直医の診断は、頭部打撲による脳挫傷であった。当然のことながら、殺人被疑事件として司法解剖となった。頭皮には確かにビールビンによる挫裂創があり縫合してあったが、頭蓋骨や内部の脳に損傷は全く認められなかつ

た。しかし、左胸腔内には1リットル以上の血液が貯留し、死因は解離性胸部大動脈瘤破裂であった。司法解剖によって、マスターは傷害罪のみで、殺人者にならないで済んだのであった。

本書は、最新医学の手法を取り入れながら、日夜活躍される熱血教授とともに、その下で働く教室員の仕事、研究など、読者もいっしょになって推理する医学を体験できるのである。

(旭川医科大学 法医学講座)